

おわりに

簡易無線は、無線従事者の選任が不要で簡易な手続きで利用できることから、現在、全国で約70万局が使用されており、特に通信チャネルが多く従来の音声に加えデータ通信も可能なデジタル方式が登場したこともあって、近年、利用者がますます増えています。

しかし、この簡易無線のうち、150MHz帯のデジタル簡易無線は、400MHz帯に比べ山間部など地形上不利な条件においても通信が確保しやすいメリット等から根強い需要があるにもかかわらず、未だデジタル方式が導入されておりません。

その理由として、150MHz帯の周波数がたいへん逼迫しており、デジタル方式に割り当てる周波数の確保が困難であることが上げられています。

このことから、もしデジタル簡易無線が既存の150MHz帯アナログ簡易無線用の周波数の中で共用・共存が可能であれば、150MHz帯デジタル簡易無線の実用化の一助となると考え、デジタル簡易無線用の周波数の効率的な割当方策、並びに共用・共存して使用する際に必要な条件等について調査検討を行うことにより、デジタル簡易無線の普及促進とともに、周波数の効率的な利用に資することを目的として本調査検討会を開催してきました。

本調査検討会では、まず福井県大野市において、デジタル無線とアナログ無線が同じ周波数帯で使用するシミュレーションのため、実験試験局を用いて通信実験を実施し、さらに各種の試験や調査を行って周波数の共用・共存を行う上で必要なデータの取得しました。

その後、これら取得したデータ及び150MHz帯デジタル簡易無線に関わる需要の検討、周波数の効率的な利用方策等について検討を進め、同無線の実用化に係る諸課題の検証結果と利用者の利便性向上に向けた方策を報告書に取りまとめてきました。

その結果は、150MHz帯デジタル簡易無線の実用化は、十分可能であると確認できたことが最大の成果だったと思っておりますし、今後の発展に大きな期待が寄せられるのではないかと考えています。

今後、本調査検討会の報告が、さらなるデジタル簡易無線の高度利用と普及により、広く国民のみなさまの生活に関して役立つものとなれば幸いです。

最後になりますが、昨年5月から本年3月までの間に4回にわたり開催した本検討会並びに作業部会において、熱心な論議と貴重なご意見をいただいた構成員のみなさま、通信試験において多大なご協力をいただいた関係する方々に、この場をお借りして深く感謝いたします。

150MHz 帯アナログ簡易無線局用周波数におけるデジタル方式との周波数共用に関する調査検討会
事務局